平成 25 年度第３回　吹田市立図書館協議会（会議録要録）

開催日時　：平成 26 年 2 月 25 日（火）
午後 2 時～4 時
開催場所　：中央図書館 1 階第 1 集会室

出席者委員）伊藤委員、稲垣委員、島村委員、末岡委員、辻委員、西尾委員、早瀬委員、原田委員、渡邊委員
事務局出席者）川下地域教育部長、小池地域教育部次長、竹村中央図書館長、宮東参事、西尾参事、金森千里図書館長、廣本江坂図書館長、櫻井さんくす図書館長、長島千里山･佐井寺図書館長、長千里丘図書館長、岩本山田駅前図書館長、中谷主幹
傍聴者：なし
事務局）《配付資料の確認と、出席状況および人事異動の報告》川下地域教育部長挨拶

平成 25 年度第 3 回吹田市立図書館協議会次第
１　新委員紹介
２　役員選出
３　平成 24 年度（2012 年度）吹田市立図書館点検・評価報告書（案）について
４　報告事項
（1）平成 26 年度図書館費予算（案）について
５　その他
（1）　次回日程について
（2）　その他

事務局）定刻になりましたので、ただ今から、平成 25 年度第 3 回吹田市立図書館協議会を開催させていただきます。会に先立ちまして、任期満了となりました会長、副会長について選出していただくこととなります。それまでは事務局で進行をさせていただきます。
本日会議の傍聴を希望されている方はおられませんので引き続き会議を進めさせていただきます。それでは配付資料の確認をさせていただきます。
事務局）《配付資料の確認と、新委員の紹介、川下地域教育部長挨拶、会長、副会長の選出》

議　長）それでは改めまして平成 25 年度第 3 回吹田市立図書館協議会を開催させていただきます。本日の会議は午後 4 時までの予定とさせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

(1)　平成 24 年度（2012 年度）吹田市立図書館点検・評価報告書（案）について

事務局）平成 24 年度の点検と評価につきましてご議論をお願いします。

委員の皆様からご意見をいただき次回の協議会で最終案を提出させていただきたく、考えておりますのでよろしくお願いいたします。

なお、今回も平成 23 年度と同様に図書館の全事業のうち中心となる 4 項目を評価しております。

《資料に基づき事務局説明》

議　長）何かご意見ご質問等ありますでしょうか。

G 委員）次回ぐらいには、平成 25 年度の評価をして次年度の方向性を議論する時期だと思うので、平成 24 年度を今評価するのは遅いと思いますし違和感があります。これが公務員の仕事かと思ってしまいます。

事務局）誠に申し訳ありません。委員ご指摘のとおり私どもも遅いと認識しております。平成 24 年末に出された文科省の「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の中で、点検評価についても行っていくべしと明記され、吹田市もそれに則り平成 23 年度から評価をはじめました関係で、取組みが遅かったため 1 年遅れとなっております。今回のものは次回の協議会で決定していただいて、11 月頃に開催予定の協議会に平成 25 年度分を出させていただいて遅れを取り戻したいと考えています。通常、統計数値を正確に出すのに夏ぐらいまでかかるためそれ以上早くできませんが、数値を早く出すよう努力し追いつくように努力してまいります。

F 委員）(13) の貸出冊数について 4.8%の増加となっているが、平成 24 年度の中に千里図書館がすでに新しくなり移転し 3 割増加したということと、千里丘図書館ができたという変化があるのに単純に 4.8%増加と考えていいのですか。

事務局）千里は視聴覚資料を始めて置くことで 9 月以前と比べ約 3 割増えています。千里丘は 1 月の開館で 3 月までの実数で出しており、全体で 4.8%の増加となっているということです。平成 25 年度でどちらもフルで開館した状況での推移を見たいと思っています、概算ですが平成 25 年度末で総貸出点数が 390 万点ぐらいになると推測しています。

F 委員）千里丘図書館の数値を抜くのはあまりよくないと思う。千里丘図書館がなければ違う図書館を利用しているし、千里丘ができたことで今まで借りられなかった人が借りられる。そこをごっちゃにしてただ単純に 4.8%増加したから成果が出ましたというのはちょっとよろしくないかなと思います。

事務局）もう一度事務局としても分析をしたいと思います。

I 委員）　点検評価についてですが、この席で外部評価をするという前提で良いのですね。初めての方もいらっしゃいますので、外部評価をどういう手順でするのか始めに説明していただいた方かいいと思います。

事務局）本日出していただいた意見をもとに、外部評価の空欄を、会長、副会長と御相談の上で作成し、次の協議会までに委員の方にお送りし、再度ご意見をいただき、協議会で最終決定していただくという運びになります。

Ｉ委員）1ページ、2ページにある全体的なサービス多様なサービスの中で4点を特化しているが4点以外のことはどう扱ったらいいのですか。

事務局）最後の7ページでその他意見、総合評価のところに意見を入れさせていただきます。

Ｊ委員）3の（5）の大学図書館や類縁機関との連携のところで「他機関との積極的な情報の共有化や連携に課題を残しています。」と、平成23年度とほぼ同じことを書かれているが、何か特別に課題が残るような問題点があるのなら教えてください。

事務局）文章が一緒なのは推敲不足です。現在、特に解決しなければならない課題はありません。実際には、市全体で市内各大学と連携会議を行っており、図書館も参加できるようになったので実際には若干進んでいます。修正いたします。

Ｂ委員）6ページの障がい者サービス事業について、音訳図書貸出点数の達成度が低い原因を利用者の高齢化と新規申込が少ないからと言われたが、それが続いているのであれば、音訳・点訳図書の所蔵数は増えているのに余計に差が開きます。新規の利用者が増えないのか、絶対的な人数が少ないのかどちらですか。

事務局）新規利用者を開拓できないというのは事実です。盲学校と直接連携がとれていないとか、対象者がどのくらいいらっしゃるのかも正確に把握していません。それは、それとして、なぜ貸出点数が下がっているかということですが、音訳図書もデジタル化の方向に進んでおりまして、全国的なネットワークにアップロードすると吹田だけでなく全国の方が聞けるという状況が出てきています。テープやＣＤなどの媒体としての音訳図書の貸出だけでは利用実態が追えなくなってきています。障がい者の方から同様のご意見をいただいていまして、吹田市の障がい者サービスを今後どうしていくべきなのかということが問題になるのではないかと考えています。日本ライトハウスなどをご利用の方などは、全国ネットワークであるサピエのデータをダウンロードして聞いておられます。そんなことも貸出数値が下がる原因ではないかと思っています。だから作らないということでなく、作ったものはどこかでは利用されているが、ここの数値となって表れてこないということになります。また、利用者の高齢化で登録者の実数が少なくなっているというのも原因だと思います。

Ｉ委員）対面朗読回数が上がっているのは、千里丘図書館の対面朗読室が活用されているという説明でしたか。

事務局）対面朗読は、さんくす図書館で増えています。利用制限が無いため、お一人が熱心にご利用いただくと爆発的に数値が伸びる傾向があります。平成25年度

は減ると予測しています。

Ｉ委員）若い方がデジタル化に馴染まれるのが早く、地元の図書館ではなくオンラインで利用されるという形に進んでいくと思いますが、地域図書館で行えるサービスを対面朗読も含めて何を考えていくかということですね。スキルアップ講座などの講習は図書館でしておられますか。ライトハウスでしておられますか。

事務局）図書館でしています。講座を組み講師をお招きして実施しています。

Ｉ委員）養成を受けたボランティアの方は活動の機会があるのですか。

事務局）市内の音訳グループに入っていただいて、音訳図書を作りながら対面朗読のサービスをしていただいている方と、対面朗読のみされる方がおられます。

Ｇ委員）6ページの自己評価のところで「全国データベースへの参加で利用促進を図りました」と書かれていますが、先ほどの説明だとテープで利用しようとする人からデジタル化データを利用する方向に変化しているというお話がありましたが、図書館を通じて全国のデータベースにアクセスするシステムがあるのですか。その利用者が増えているということであれば、テープの貸出だけが減っているということだけを見てもあまり全体の利用者がどうなっているかの評価にならないのではないですか。図書館を通じて障がい者の方が読んだりした実績はどうなのかわかれば、全体として評価できる気がします。

事務局）日本点字図書館のサピエというデータベースがあり、日本各地のデイジー（録音図書のＣＤ版）やカセットの目録が載っています。図書館も今年の7月ぐらいからデータをアップしており、吹田の市民だけでなく全国の利用者に利用していただけるよう紹介しています。利用については、テープかデイジーで貸出をすれば統計として残るが、データベースをダウンロードされる場合は、把握ができません。点字図書もダウンロードして点字プリンタで印字したり音声データで読んでいただくことができ、視覚障がい者に対するサービスは全国レベルで展開される方向になっています。その実績はわからないが、だからといって図書館が関知せずにこのサービスが成り立っているかというとそうではなくて製作し、本としてアップロードするという作業抜きには成り立たないので、全国一丸となって進められるべき事業というところで、今はまだ黎明期なのかなという感じです。データベースの参加で利用の促進を図りましたということは、指標の3が出て来ないとわからないということかということですね。

Ｇ委員）そういうことです。利用の方法が変わってきているから、全体として障がい者サービスを充実させていますよというのかどうか、テープの評価だけでは、わからないということです。そうなるとこれからどっちに力を入れるのかというのが次の問題としてあるはずなので、全部できたらいいが、限られた資源の中でやるのであれば、デジタルなデータベースを充実していく、しかも対象が全国ですよと言ったらそっちの方に力をいれましょうかというのか、達成度をあ

げるのがいいのか、今後の仕事のやり方として変わっていくと思うのでよく考えていただきたい。

事務局）その辺りも含めて過渡期なのかなと思います。将来的にはデジタルで全国統一ということになっていくのかと思いますが、残念ながら、デジタルを聞く機械というのが特殊なもので、手に入れるのに若干金額がかかるとか、利用方法を習得するのに時間を要します。今までテープを聞いておられる方は高齢化が進んでいますので新しい技術になじめない傾向もあり、最新の再生機器が使えないという状況もあったりするので、そういう点でも過渡期なのかなと思います。その辺りのことを利用者と図書館、社会福祉協議会、市の障がい福祉の担当部署と年に1回懇談会をして意見交換、要望受付を行っています。そこには、ボランティアの方々も入ってもらってトータルにいろいろな話をさせていただいています。

議　長）G委員のおっしゃりたかったことは、関連事項として、図書館を通じてサービスを受けたという事実がどれだけあったかというところの根拠が何か出されるといいのではないかというお話だったと思います。現在その指標というのが分かりにくいということもあって出せないというのが実情なので、今後プリントアウトしたものを 1 件と考えて何件あったかというのを経年的に見ていくとか、また指標を作っていかないといけないという問題提起であったかもしれません。

Ｉ委員）ボランティア関係なのですが、関連で2ページの（10）ボランティア人材の育成と市民との協働の拡充ですが、活発にされていますが、「図書館フレンズ」を立ち上げたという経過と内容を教えてください。

事務局）平成 24 年度の年度途中から立ち上げました。9 月に募集して半年間活動していただきました。1年目は33名、現在は37名です。これまでのボランティアグループの育成ではなく、個人登録をしていただけるボランティア活動というものを考え募集しました。

Ｉ委員）フレンズという名前の活動は色々な図書館にあるが、図書館によって位置づけが異なるので吹田市はどういう位置づけですか。例えば、私がボランティアとして協働したいと思ったら名前を登録して、内容を選んでするんですね。

事務局）そうです。月1回の館内装飾、行事の受付、工作の手伝い、郷土資料のデータ入力などを個人登録でしていただいています。2008 年にボランティアグループを養成しましたが、単年度の活動や毎年度ごとに加入していただける個人登録のほうが活動スタイルに合っているので、個人登録制度としました。

Ｉ委員）行事の参加の時には、名札とかエプロンをするのですか。

事務局）名札をつけていただいています。3か月単位で年4回、活動の希望調査をして該当の図書館に直接電話をして必要な人数を確保するという形でしています。

Ｉ委員）では、図書館のブックスタートでしていらっしゃるボランティアとは別のものなのですね。

事務局）ブックスタートや朗読ボランティアなどは固定のグループです。
補足で説明します。前年度よりも若干増え 555 名という数値が出ていますが、市民協働で、市民が支える吹田図書館を目指したいと思っています。そのために、様々なボランティアの養成を行っています。「吹田市立図書館基本構想」のアクションプランの中では、この約 500 名のボランティアを最終的には 1,000 名にしたいと考えています。今以上に充実した市民が支える図書館を目指すには、そのぐらいの数の方が活動できるように、こちら側の受入体制を整える必要があると思っています。

Ｉ委員）ご参加されている年齢層はどうですか。

事務局）図書館フレンズに関しては、熟年層が多いかなと思います。

Ｉ委員）(5) のところに、大学のインターンシップという形で書いておられますが、若い方が何かしてくださるというのはまた別ですね。

事務局）そうです。来年度からは、インターンシップや意欲的な学生さんにぜひボランティアとして図書館を支えていただきたいと思っております。

議　長）図書館フレンズとその他の既存のボランティア活動をしている団体とは、どのような違いがありますか。

事務局）活動の内容が重ならないようになっていまして、各々違う活動をしていただいています。

議　長）ボランティア団体は、縦につながっているのではなく横並びということなのですね。

事務局）はい、そうです。

Ｈ委員）この点検評価報告書というのは、その年度の基本方針と目標に照らしてどのようにやってきたかということを評価するということですね。この基本方針と目標というのは、平成 24 年度のものがその年の 8 月に出ているのですが、平成 26 年度というのはいつごろできるのですか。この協議会で方針を出すということなのでしょうか。もしそうでないのであれば、立てた方針と目標について、その実績の評価というのは、かなり限定したものになると思うし、またそれでは運営のための諮問みたいなことはできないわけですから、当然少し前向きな複数年度にわたるようなコメントが出てきてしまうでしょうし、どう議論したらいいのか質問しづらいところがあります。先ほどＧ委員から遅いというお話がありましたが、遅いことは早くすればよいのでしょうが、例えば平成 26 年度の基本方針と目標はもうできていないといけないと思うし、この協議会はその内容を市民にオープンにしているので各自の責任のとり方も変わってくると思います。現状を説明していただきたい。

事務局）運営方針が年度の途中の日付となっているのは、協議会にお示しできたのが、その日付だったということです。もう一つには運営方針とか計画等がこの協議会で審議をされて決定されるものではないということです。
それを評価しているということに少し難しい所があるのかなと思います。年度当初に、各館で方針を作り中央館でまとめるという作業はしております。数値の問題とかがあり、皆様にお示しできる日が後ろにずれるということがあるということです。実際には、そこに書かれていることがどれだけ達成されたかということなのですが、実はこの点検評価報告書自体は、全体を見た時の吹田図書館の現状を評価するという側面があるので難しくなります。

H委員）協議会が全部見るということでなくてよいと思います。であれば評価報告書も少し性格が変わったものになってきて、かつ外部評価のあり方もこれはこれとして、次にどうするのかということを示すのが目的だと思うのですがそれでいいのでしょうか。そうでしたら、良い悪い以前の話として、もう少し基本データがわからないと、最初から関わっていない人間がどうこう言うことは難しいところがあるのではないかと思います。ただ、こうしたらいいのではないかということが入るのであれば、非常に意味のあることになるかとは思います。まとめ方としてはこれでよいとは思いますが。

事務局）おっしゃるとおり、まとめ方としては難しく、前回初めて試行的にこのタイプの評価表を作りました。前回の平成 23 年度の点検評価報告書の議論の際に説明させていただきましたが、「吹田市の図書館活動」という毎年まとめたものがあり、それを全部見ていただくと全体の活動量がわかり俯瞰できるようになっています。

H委員）現場ではものすごく一生懸命やっていらっしゃっていますが、これを見ていると現場の活動が見えないと感じました。

事務局）温かいお言葉を頂戴しました。次の平成 25 年度については考えなければならないと思います。今回も実は悩んだのですがこの形しかできませんでした。実際は、図書館活動という冊子のすべてに自己評価を入れるのがわかりやすいのですが、ここに出てくる数値が最終的に出るのが５月の出納閉鎖を経て金額確定後分析し、数字を並べ、自己評価を行う手順となりますので遅くなってしまいます。何かしら次回には考えなければならないと思っています。

議　長）評価ということなので数値を見て、まだ足りないところがあるのではないかという問題提起ができれば理想的だと思います。現時点でご意見いただけるところはありますか。吹田市 35 万人都市ということで貸出冊数は出ていますが、利用者登録についてはどのような経年変化になっていますか。増えたのか減ったのか横ばいなのか、いかがでしょうか。わかる範囲でお願いします。

事務局）登録率でいいますと平成 23 年度が 30.8%、平成 24 年度末で 32.3%となって

若干増えています。新規利用者の開拓への有効な対策が出せていないとの問題意識は持っています。

議　長）新しい図書館が出来た。新しいサービスを増やした。リニューアルしたというようなことがつながっていくのではということですね。

事務局）千里丘図書館を例にとりますと開館から1年経って約4,000名の新規登録者があって今年度の登録率の増加につながっていくと思っています。

議　長）お店ではありませんが、リニューアルがあると目新しさで人が増えるかもしれませんね。

H委員）事前に頂いた資料で蔵書数86万冊で人口が35万人、これは全国的に見てどうなのでしょうか。絶対数が少ないように感じるのですが。そこが遅れているのであれば新規登録が少ない原因になると思うのですが。

事務局）蔵書冊数はご指摘のとおり少ないかなと思っています。全国の市町村の内、人口が30万人以上の都市の中で、貸出数（住民一人当たりの貸出資料数）が上位10%に入る自治体の蔵書冊数の平均値は126万冊です。平成25年3月末の吹田の蔵書は93万冊なのでやはりかなり不足していると思います。

H委員）北摂近隣ではどうですか。

事務局）真ん中より下くらいです。これには歴史的な経緯があって早くから全市的な図書館計画が出来た市は計画的に蔵書も増えていっていますし、茨木市豊中市は積極的に図書館行政を進めてきたため、数多くの蔵書を持っています。ただ最近は、図書購入費が近隣市も財政難のため減っており、吹田が上回る状況も出てきています。

４　報告事項（１）平成26年度図書館費予算案について

議　長）次第の4の報告事項平成26年度図書館費予算案に移ります。

事務局）お手元の資料の 3 ですが、当初予算の案ということで前年度比較をまとめたものです。3月議会の承認を得て実際のものになるためまだまだ案の段階であることをお含みおきいただきたいと思います。

上から一般会計、教育費、社会教育費、図書館費と上げさせて頂いています。一般会計がお手元の資料では平成26年度が空白となっておりますがこちらは、112,824,727千円です。プラス7.79%の伸びを示しております。その中で教育費がプラス12.3%となっています。その中の社会教育費と図書館費を上げております。社会教育費は平成25年度に比してマイナス5.6%となっておりますがこれは、地区公民館の改修費等が減額となっているためです。図書館費の方はプラス2.1%です。これについては千里図書館が年度途中で窓口委託になった分が今年は1年分の計上となったため若干増えております。全体を縮減しながら委託費が増えたということです。ちなみにこの図書館費 11 億は一般会計の1%に当たります。従来公共図書館の活動指標としてこの数値が上がってきま

す。図書館界では「市財政の１％を超えて活動しよう」という標語が掲げられることがあります。それを思えば、吹田市は頑張っているほうかなと思っています。その下に、図書館関係予算として人的経費、警備清掃などの施設管理経費、事業費や窓口委託費などサービスに関わる施設運営経費をお示ししています。

図書館協議会に関係する経費その他については一番下にお示ししています。この中で図書視聴覚資料費が 6,806 千円少なくなっております。これは表の一番下でＩＣタグ導入事業関連経費の 7,768 千円を上げさせて頂いておりますがこちらに使っているということです。次のページ以降に説明を付けておりますが、現在バーコードで図書の管理をしているものを、物品管理をするシール（ＩＣタグ）を貼って電波で管理していく仕組みを導入したいというものです。コンピュータの入替予定をしている平成 27 年 11 月に、ＩＣタグ対応機器を導入するために平成 26 年度からその準備を始めるというものです。効果としては、出入り口にゲートを作って無断持ち出しを防止する。年間数百万円くらいの損失があるのを防止できるということ。現在、本に貼っているバーコードの番号を 1 冊ずつなぞって貸出手続きを行っていますが、ＩＣタグを貼ると 15 冊程度を一度に機械に読ますことができるので利用者の皆さんがご自分で手続きしていただけるように簡単になります。次のページに写真を付けさせて頂いていますがこのように御利用者自身で手続きをしていただくというスタイルを目指したいと思っています。

導入効果としてプライバシーが守られる。職員の削減が図れる。実際には業務委託費の削減が図れる。そのことで導入にかかった経費を浮かせて総じてプラスに転じるように計画をしています。イニシャルコストとして、ＩＣタグ代に約 2000 万円、ランニングコストとして年間 2200 万円増加しますが、平成 31 年度以降は、毎年 1200 万円程度の縮減の効果があると試算しています。作業計画としては平成 26 年度と平成 27 年度に書架に並んでいる 60 万冊を作業（ＩＣタグを貼る）し、その後書庫に入っているもの等を 4 年間にわたって作業する計画です。他市の導入状況ですが、豊中市は平成 26 年 3 月に稼働予定です。高槻市は平成 22 年 1 月から稼働しております。いままで紛失で数百万円もの損失があったものが数パーセントに減ったと聞いています。箕面市は 25 年 4 月から稼働、池田市は只今貼付中、茨木市は検討中ということです。北摂の中でも順次導入しており、吹田でもコンピュータ入れ替えの時期を逃すと導入できないので平成 27 年 11 月を目標に実施するため、資料費を使うということは心苦しいのですが、2 年間資料費は若干減るということです。

当初予算に関する説明は以上です。この予算案の中には細かく出てこないのですが、もうひとつの目玉の事業は広域利用で隣接の市と利用者が相互乗り入

れをして相手の市の図書館が使えるというものです。現在豊中市とは3年目に入っておりますが、豊中市4館と吹田市4館で市民が相互に利用できます。

予約ができないなどの制限はありますが、読む、借りると言ったことは自由にしていただけます。これを広げて行きたいということで現在大阪市と協議をしておりまして来年度の早い時期にさんくす図書館を大阪市民に開放していきます。予算としては他市の市民向けの色の違うカードを印刷するだけで、他にはかかりませんので予算額等説明していません。

議　長）今の報告についてご意見ご質問をお願いします。

Ｂ委員）ＩＣタグについてメリットはよくわかりました。これは今の蔵書シールの上に貼るのでしょうか？蔵書シールは要らなくなるのですか？

事務局）目視で入力することもあるので蔵書シールは必要です。

Ｂ委員）　子どもの本に関わる者としては絵本など今の蔵書シールでも大きいと思うので、見返し部分にもいろいろ情報があるので（シールがあると）気になります。場所は指定の位置なのでしょうか。

事務局）図書の「のど」のあたりになると思います。ただ、シール自体小さくなっていて透明なシールを貼るので、影響は少なくなると思います。

事務局）既存の本にはこの位置に貼ることになりますが、新刊で納入されるものについてはカバーの中などに貼って納入されてくることになります。全然邪魔にならない位置にくることになります。

Ｉ委員）ＩＣタグ導入については北摂でも全国でも進んでいることなのでそうかなと思います。そのなかで２つ申し上げたいのですが、やはり資料費を2年間にわたって充当するということは予算の折衝で苦労されたとは思うのですが、利用するものとしてはつらいなあと思います。千里丘図書館を利用している友人が何人かいるのですが、図書館が出来てうれしいけど資料が足らんというのです。せっかく新しい図書館ができてもう少し本が欲しいという声を届けておきたい。

事務局）私どもも自覚しているところです。やはり開館当初はガラガラになるくらい借りていただいた。これは数値にも表れていて建設時の試算が 26 万冊の貸出予想数であったところ実は 40 数万の貸出になっていて大変うれしい悲鳴を上げているのですが、おっしゃっていただいているとおり書架の本が無いように見えてしまい、特に児童書が顕著で何度も他館の書庫や複本を足したのですがそれでも追いつかなかった。最近少しましになったようです。新館を建てた後、何年かは資料費を手当てし蔵書を増やしていくべきなのですが、財政的には難しい状況です。26 年度の予算についてはそれを考慮に入れて配分を決めたいと思います。

Ｉ委員）私の住んでいるのはこのシステムの入っている市なのですが、実際このシステ

ムになってから図書館員の方とお話しする機会が減っています。返す時は「そこの箱に入れてください。」ですし、予約の本はガラスの小部屋に入って自分で取って自分で借りて帰るということになっています。さみしいなと思うのが利用者なので、ぜひその辺運営上で工夫をお願いしたいと思います。

議　長）経費削減のところで平成 31 年度以降は毎年 1200 万円の縮減と書いてあるのですがこれは永久では無いですね。

事務局）これはかかった経費に対して毎年総額が 1200 万円圧縮されるということなので、続くということです。窓口の効率化により業務委託費の縮減につながるということです。また紛失による損失が限りなくゼロになります。

Ｇ委員）紛失は正確に把握されていないのでしょうか。数字よりも判明した年に図書費が出たということですか？紛失の分はすぐに買うのですか？買い直しをするということであれば確実にその分が減るということですね。

事務局）イコールで買い埋めているかといえばそうではありません。

Ｇ委員）それだけ減っているということであれば、やっぱり意味があるかな。

事務局）最後に実は一番大事な報告なのですが、施設整備計画では図書館利用不便地域となっていた岸部地域に、岸辺駅前の再開発に合わせて図書館整備をしていきたいと考えておりました。平成 21 年頃から庁内ではそういう話を始めていました。国立循環器病研究センターが最終的に岸部に落ち着いたということで、東部拠点整備にかかる事業が大きく前進を見たわけですが、その過程の中で図書館建設の可能性を探ってきましたが、当初考えていた駅前での整備は断念せねばならないということになりました。ただすべてやめたというわけではなく岸部地域が利用不便地域であるということは変わらずに認識しておりまして適地を今探しているということです。もう一点はその間に何か手を打てないかということで、先ほど申し上げました摂津市民図書館の利用、岸部の南地域については利用できる範囲にあるのかなということで利用開始の協議を整えていきたいということです。今まで協議会の方には報告をしていませんでしたので来年度予算を諮る折に一緒に報告させていただきました。東部拠点が来年度予算より確実に動き出します。その中に図書館が入っていない事情はそういうことです。様々な事情がありますが、引き続き適地を探しているということでご理解いただけるとありがたいです。

５　その他

（１）次回日程について

事務局）次回は６月で予定しています。日程は４月に改めて調整します。

（２）その他

Ｉ委員）学生にも勧めている本をこの場で紹介したいと思います。今年出た本で「走れ

移動図書館」ちくまプリマー新書です。震災復興の折になぜ自動車文庫を走らせたのか、サービスの原点が良く描かれていると思います。もう1冊ちくま新書で「つながる図書館―コミュニティーの核を目指す試み」という本です。日本の中で、図書館はこんないろんなサービスができるんだなということと、また府県立図書館の役割を一般向けに大変わかりやすく書いた本です。図書館のことをお考えになる時にひとつ参考になるかなということでご紹介します。

Ａ委員）初めて参加して忌憚のないご意見が聞けた。公民館の運営は平均年齢65歳以上の委員でやっているので不勉強で申し訳ないが、できたらカタカナ語でなくわかりやすく表記してもらえると意味がつかめるかなと思います。お願いいたします。

事務局）図書館協議会の第5期まではご意見ご提言という形で委員の意見をまとめていただいて図書館の運営に反映してきました。今期については、中央図書館の老朽化が進んでいるので、中央図書館のありかたを論議していただけたら良いかなと思います。前期からの課題であります、学校連携の中学の部分とか実際に中身をどう進めていくかというところ議論は残っております。基本構想でも照会していますが、現在は数千平米の大きな図書館が出来てきています。いろんな機能を積み重ねていくとそれくらいの広さが必要ということかと思います。現在の中央図書館で何が出来て何が出来ていないのかと言う事を委員の皆様と話し合うのが中央図書館の計画を作っていく上で大事なことだと思いますので時間を割いていただければ幸いだと思います。よろしくお願いします。次回の会議で議長副議長と相談して議論の方法等の御提案をさせていただきたいと思います。

議　長）本日予定をしていた案件は以上です。これで閉会させていただきます。ありがとうございました。

本要録ならびに配布資料は、吹田市立の各図書館及び情報公開課で閲覧可能です。
要録作成日：平成26年（2014年）3月20日